

小特集 「日本の AI 元氣な若手の動き」

NLP 若手の会

Young Researcher Association for NLP Studies

<http://yans.anlp.jp/>

〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町

総合研究9号館南棟2階S-212

nlp.yans@gmail.com

研究のキーワード: natural language processing, NLP, YANS.

1. 設立趣旨

NLP 若手の会 (Young Researcher Association for NLP Studies: YANS) は自然言語処理の若手研究者を中心に運営されている組織である*1。自然言語処理およびその関連分野の若手研究者の交流を促進することにより、自然言語処理およびその関連分野の進歩・発展・普及を図ることを目標に運営している。2006年に最初のシンポジウムを開催してから、本年で10年以上続いている。

2. 活動状況

YANSの主な活動は、夏に開催される年1回のシンポジウムと、3月の言語処理学会年次大会期間中での若手懇親会(通称、YANS懇)の開催である。

2.1 シンポジウム

シンポジウムは2016年で11回目である。直近3回は2泊3日の合宿を実施し、アンケートでも好評であるため、しばらくこの形態が続きそうである。参加者は初期の頃から80人前後を推移してきたが、ここ3年で参加人数は倍増し、2016年の合宿では150人に及んだ(図1)。このうちの半分が学生で残りが社会人であり、社会人の半分はスポンサー企業からの参加である。

新しい研究のきっかけになることと、横のつながりを

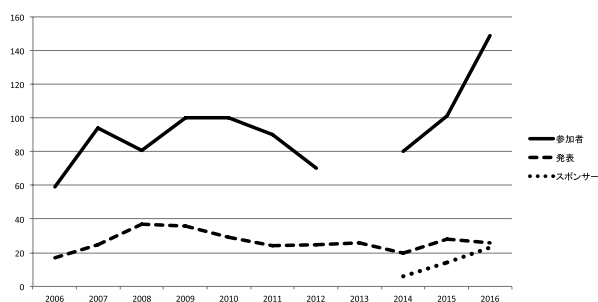


図1 シンポジウムの参加人数、発表件数、スポンサー数の推移

広げるという目標のために、ポスター発表と懇親イベントを中心に実施している。口頭発表を採用した年もあったが、より多様な議論を生むことを期待して原則的にポスター発表のみとしている年が多い。また、2015年より人に見せるデモを発表する、デモ発表も実施している。

表彰は第1回から行っており、参加者の投票によって「奨励賞」という形で表彰している。会の趣旨を反映し、完成された研究よりも今後発展しそうな研究を評価する、という基準を設けている。その他に、デモ発表やハッカソンに対しても、奨励賞とは別に表彰を行っている。

発表以外には、招待講演と国際会議参加報告を実施している。2016年は周辺分野との交流をテーマに、画像処理の専門家、および音声処理の専門家の二人を招いた。

合宿形式になってから、目的の一つである参加者同士の交流は円滑に進むようになった。レクリエーションの時間を合宿中にとり、観光やスポーツを企画している。また、所属や年齢を無視し、ランダムに部屋割りを決めることで、交流のきっかけになることを期待している。

十分な資金をもっていない学生の参加を促すために、参加費や宿泊費の補助も行っている。それ以外にも、過去には希望者の予稿の添削をしたり、ハッカソンを実施するなど、毎年その年の担当者が趣向を凝らしている。

合宿になった2014年以降、スポンサーを募集し開催の経費や参加費の補助に当てている。また、スポンサーの方にも合宿に参加していただき、普段交流を取れない企業の方とも交流できるようにしている。参加者の多くが学生ということ、同室で密に交流できることもあり、採用を目的とする各社にも好評を得ている。件数も増加傾向で、2016年は23社のスポンサー企業が集まった。

2.2 YANS懇

YANS懇は例年3月に開催される言語処理学会年次大会の期間中に行われる懇親会である。この会議は毎年800人近くが参加する、自然言語処理の国内最大の会議である。毎年、2日目の夜に年代別に懇親会が開かれることが恒例化しており、YANS懇は若手が中心に開催する懇親会となっている。2016年のYANS懇では150人が参加する巨大なものになっている。

最近では、多くの人と会話できるように立食形式としている。学会期間中の開催のため参加しやすいようで、まだ配属が決まっていない学生の参加も目にする。実際にYANS懇に参加してから自然言語処理の分野に進路を決めたという声も聞いたことがある。また、可能な場合はプロジェクトを借りてライトニングトークを実施している。企業からの告知や、学生参加者が自分のつくったものをアピールする場としても活用している。

2.3 YRSNLP

2016年はNLPの主要国際会議のCOLINGが大阪で行われた。この併設イベントとして、YANSシン

*1 <http://yans.anlp.jp/>

ポジウムの交際化版, YRSNLP (Young Researchers Symposium on Natural Language Processing) を主催した。内容は YANS シンポジウム同様, ポスターによる発表と, 四人の若手研究者による招待講演を実施した。初の試みであったが, 国内外から 90 名近い参加者を集めることができた。

3. 運 営

会の運営は, 三人の共同委員長を中心とした運営委員により運営されている。シンポジウムが合宿となったこともあり, 運営コストが急増している。そのため, 委員の人数をこれまでの 10 名程度から 20 名程度へと増やし, 委員の負担軽減を図っている。加えて, マニュアル化を進めたり, 資金管理のための口座の開設など, 組織運営を円滑にするための仕組みづくりを進めている。

シンポジウム開催が一番大きなミッションとなっており, 合宿遂行を中心に係を割り振っている。現状では, 会計, 広報, 会場, 合宿, プログラム編成, プログラム企画の六つの係に分かれて運営を行っている。

原則的にすべて自分達の手で実施している。旅行会社などの外注の利用も検討されたが, 自分達の問題を自分達の頭で考えて実施するのがよからうということで, 今のところ利用していない。もちろん今後さらに規模が拡大していったときには, 運営の形式はその時代に合わせて検討していくのが良いだろう。

4. 今後の展望

ここ数年は, 会議形式から合宿形式への大きな変換点であり, またスポンサー募集など外部関係者の拡大に合わせて, 運営組織の拡大と合理化など, 運営面での改善が必要であった。さらに, 人工知能ブームに乗って, 参加者・スポンサーともに拡大傾向にあり, 当面は安定的・継続的に開催できるようにすることが課題である。

加えて, 学会開催における新しい取組みや, 新しい技術を積極的に取り入れていきたい。「若手の会」と銘打つ以上, 参加者が若手であることを生かして, 大きな会

議ではできないようなリスクの高い施策や企画を積極的に実施していきたい。言語処理学会などの学会の委員を兼任している人も多いので, 成功した施策を別の会議に輸出することもできるだろう。

また, 言語処理に限らずより広く人工知能関連の各組織やエンジニア組織とも連携を深めていきたい。参加のしきい値を下げ, 多様な交流が生まれる土壌をつくっていきたい。

著 者 紹 介



海野 裕也

2008 年東京大学大学院情報理工学系研究科修士課程修了。同年, 日本アイ・ビー・エム株式会社入社。2011 年株式会社 Preferred Infrastructure 入社。2016 年株式会社 Preferred Networks 入社。自然言語処理, テキストマイニング, 機械学習の研究開発に従事。オープンソースの深層学習フレームワーク Chainer のコミッター。著書に「オンライン機械学習」(講談社, 共著, 2015)。



岡崎 直観 (正会員)

2007 年東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。2005 年英国テキストマイニングセンター・リサーチフェロー, 2007 年東京大学大学院情報理工学系研究科・特任研究員を経て, 2011 年より東北大学大学院情報科学研究科准教授。専門は, 自然言語処理, テキストマイニング, 機械学習。



西川 仁 (正会員)

2008 年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。同年, 日本電信電話株式会社入社。2013 年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了。博士 (工学)。2015 年より東京工業大学情報理工学助教。自然言語処理, 特に自動要約, 自然言語生成の研究に従事。



中澤 敏明

2010 年京都大学大学院情報学系研究科博士後期課程修了。博士 (情報学)。京都大学大学院情報学系研究科特定研究員などを経て, 現在は科学技術振興機構研究員。2005 年より機械翻訳の研究に従事。アジア翻訳ワークショップ (WAT) オーガナイザー。著書に「機械翻訳」(自然言語処理シリーズ, コロナ社, 共著, 2014)。